作成日：2025 年 1 月 7 日

「課題名：高速液体クロマトグラフ（HPLC）、液体クロマトグラフ質量分析計(LC-MS/MS)を用いた遊離型テイコプラニンの定量法及び測定条件の確立と治療最適化に関する研究」について

○　研究の意義・目的

テイコプラニンを用いた治療では、治療効果確保や副作用回避のため、血液中のテイコプラニンの濃度を調べることで用量を調節しています。テイコプラニンは血液中でその多くはタンパク（主にアルブミン）と結合しており、血清アルブミンの変動に影響を受けやすい薬剤です。近年、このタンパクと結合していないテイコプラニン（遊離型テイコプラニン）の濃度も重要と考えられていますが、その臨床的な意義についてはエビデンスが不十分であるのが現状です。

そこで本研究ではまず、HPLC もしくは液体クロマトグラフ質量分析計(LC-MS/MS)を用いた患者血清中の遊離型テイコプラニン定量法及び測定条件の確立を試み、実臨床におけるテイコプラニンの遊離型血中濃度と効果及び副作用について評価し、治療最適化の方法を確立することを目的とします。遊離型テイコプラニン血中濃度も含め、適切な評価ができるようになればこれまで以上に有効性、安全性を高めることが可能となることが期待されます。

○　研究対象者

2022 年（許可日）から 2028 年 3 月 31 日までに、広島大学病院でテイコプラニンによる治療を受けられた患者さんを対象とします。

○　研究方法

本研究では、テイコプラニン濃度の測定に使用した残余検体を使用して遊離型テイコプラニン濃度の測定を行います。加えて診療録（カルテ）情報を転記してデータ解析を行います。
カルテから転記する内容は年齢、身長、体重、性別、バイタル（血圧・脈拍数・呼吸数等）、血液検査（肝機能、腎機能、アルブミン等）、細菌検査結果、薬剤投与歴等です。個人が特定できる情報は転記しません。

○　試料・情報の管理責任者　　広島大学病院薬剤部　教授　松尾　裕彰

○　研究期間　　研究機関の長の許可日　～　2030 年 3 月 31 日

○　個人情報の保護について

調査内容につきましては、プライバシー保護に十分留意して扱います。情報が個人を特定する形で公表されたり、第三者に知られたりする等のご迷惑をお掛けすることはありませんのでご安心ください。

<u>不明な点がございましたら下記のところまでお問い合わせください。</u>

＊研究に資料を提供したくない場合はお申し出ください。お申し出いただいても今後の診療等に不利益が生ずることはありません。

お問い合わせ先
〒734-8551　広島市南区霞 1-2-3
Ｔｅｌ：082-257-5597
広島大学病院薬剤部　　教授　松尾　裕彰（研究責任者）
助教　垰越　崇範（担当者）